

STAGE+を楽しむ(91)(HP 掲載)  
—ルツェルン音楽祭メンデルスゾーン祝祭プログラム—

1. 始めに

前報(90)に引き続き、STAGE+のルツェルン音楽祭 2023 春メンデルスゾーン祝祭プログラムの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ルツェルン音楽祭 2023 春メンデルスゾーン祝祭プログラムの演奏を選びました。

ブレハッチも出演、フィッシャー指揮によるルツェルン音楽祭 2023 春メンデルスゾーン祝祭プログラム

収録日: 2023 年 3 月 31 日

3 月 31 日から 4 月 2 日までルツェルン文化会議センターで開催された「メンデルスゾーン・フェスト 2023」はメンデルスゾーンとショパンやシューマンの絆を祝福し、その音楽的友情に捧げられた音楽祭でした。その中からイヴァン・フィッシャーがルツェルン祝祭管弦楽団を指揮したプログラムをお届けします。ショパンの名手ラファウ・ブレハッチを迎えたコンチェルトの第 2 番も聴きどころですが、注目は第 3 楽章のメヌエットとその置き換え版としてメンデルスゾーン自身が弦楽八重奏曲のスケルツォを管弦楽編曲したものを 2 つ揃えた、交響曲第 1 番の特別ヴァージョンです。

ソリスト:

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)

演奏:

ルツェルン音楽祭管弦楽団

指揮:

イヴァン・フィッシャー

曲目:

フランツ・シューベルト イタリア風序曲ハ長調 D 591

フレデリック・ショパン ピアノ協奏曲第 2 番へ短調 op. 21

ラファウ・ブレハッチ(ピアノ)

フレデリック・ショパン マズルカ嬰へ短調 op. 6-1

ラファウ・ブレハッチ(ピアノ)

フェリックス・メンデルスゾーン

交響曲第1番ハ長調 op. 11 (1892年作曲のスケルツォ変ホ長調 op. 20付き)

### 3. 試聴の経過

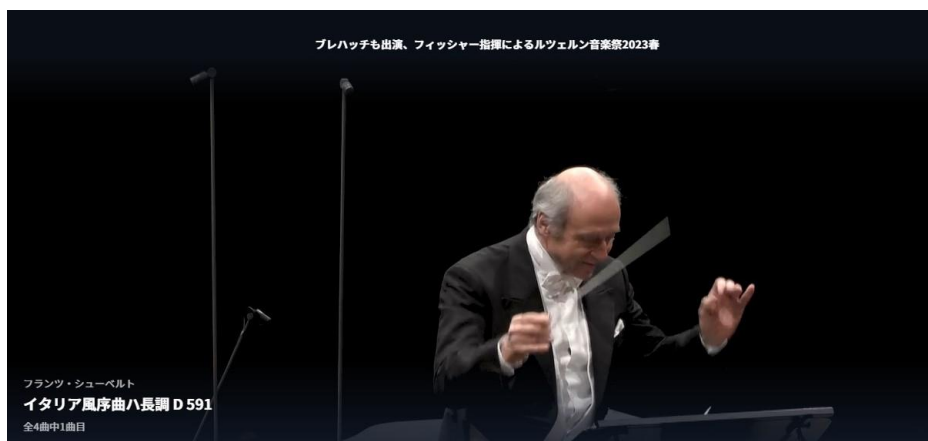
今回もLANアキュライザーをスイッチングハブからPCへのLANケーブルに装着して聴いていきます。

シューベルトのイタリア風序曲は、初めて聴く曲ですが、イタリア風というだけあって、明るく軽快な曲です。

ショパンのピアノ協奏曲第2番は、お馴染みの曲で、ラファウ・ブレハッチは初めて聴く若いピアニストです。ショパンのピアノ協奏曲は憂愁にみちた重厚な演奏が多いのですが、ブレハッチのピアノは切れがよく、爽やかな演奏です。

マズルカ嬰へ短調はアンコール曲で、これもブレハッチの爽やかな演奏です。

メンデルスゾーンの交響曲第1番は、前報(90)でショルティ指揮シカゴ交響楽団による演奏で第3番と第4番を聴いていますので比較してみますと、フィッシャー指揮ルツェルン音楽祭管弦楽団による第1番は、フィッシャーの端正な指揮の下、バランスの取れたオーケストラの音で、構成の整ったロマン派らしい曲を表現しています。



#### 4. まとめ

ルツェルン文化会議センターで開催されるルツェルン祝祭管弦楽団のライブ収録の演奏でLAN アキュライザーの効果を聴くのは初めてですが、プレハッチの切れがよいピアノの美しい響きやバランスの取れたオーケストラの音が生きていました。

以上